

株式会社ズーム  
2020年8月21日

## 2020年12月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答の要旨

### Q1：ズーム UK の現地倒産法に基づくアドミニストレーション終了後について

A1：ズーム UK は会社清算となる予定であり、UK 地域への当社製品の販売については、ドイツの Sound Service 社が同社の UK の拠点において事業を継承している。

また、経営管財人であるアドミニストレーターが作成した提案書に基本合意しており、その提案書に基づき、当社が保有する ZUK 株式及び債権回収不能額等の合計 249 百万円の損失を計上した。管財人による債務整理が今後 2 年程度かかると見ているが、いまのところ追加の損失計上は見込んでいない。

さらに、取締役 2 名は、株主間契約で「倒産法の手続きを申請する場合には全株主の同意が必要」とされていることを無視してアドミニストレーションの申請を行ったが、それ以外に取締役両名が何らかの不正行為を行ったかどうかは不明であるため、会社清算手続きと並行して不正調査専門会社を通じて調査、責任の追及を行う予定である。

### Q2：高価格帯のエフェクターである G11 を発売した背景とその利益率について

A2：上場による知名度アップや資金調達によって、高価格帯でも受け入れられる商品を開発した。また、主力製品であるハンディレコーダーから派生した製品である F シリーズ（プロフェッショナルフィールドレコーダー）が、販売価格 15 万円程度の高価格帯でありながら計画通り販売できた実績を踏まえて、エフェクターについても同様のチャレンジをしている。今のところは好調な販売と受注実績となっている。

当社はユーザーが良いものを適切な価格で購入できることを目指しているため、製品の価格帯によって異なった粗利益率を設定することは無く、粗利益率 35% から 40% のレンジで価格設定している。

### Q3：フックアップ社と競合する製品の今後の取り扱いについて

A3：フックアップ社取扱いブランドの Universal Audio のオーディオインターフェース（当社の製品の価格帯の 2 倍程度）はプロ仕様であり、当社のオーディオインターフェース U シリーズ（価格帯は 1-2 万円）とは棲み分けが可能である。また、IK Multimedia は、当社の製品より低価格帯であり同価格帯では無い。今後、フックアップ社の取扱いブランドが増えていくが、同価格帯のブランドは取り扱わない方向で考えている。

**Q4：電子回路の設計や音の信号処理ソフトをハードに組み込んだ製品は、今後、デジタルカメラ機能がスマートフォンに取り込まれた事例と同様のことが起こり得ないか**

A4：当社の製品の最大の特徴はマイクの性能と音声処理である。低音から高音まで録音するためには物理的にマイクカプセルの大きさが必要で、スマートフォンの5mm-7mm程度の薄いマイクでは同様の高音質録音は実現不可能であるため、そこで優位性を保っている。音楽制作や配信作業では、録音機材をセットアップしたままでシンプルに使用できる製品の市場価値は存在すると考えており、音の世界では、デジタルカメラのように機能がスマートフォンに取り込まれていくことは今のところ想定していない。

**Q5：音の信号処理やソフトの技術をアプリ化し販売する展望について**

A5：当社はハンディレコーダーアプリ、ギターエフェクターをスマホで管理するアプリも開発して提供している。これらを有償で販売はしておらず、ハードウェアの機能を補助する目的で提供しているが、プロ用として機能を追加して高機能アプリを有償で提供することも今後検討していきたい。